

西高校生レポート

西高農場は、地域とともに先端技術の研究・研修、憩い、自然とのふれあいの「場」として開放しています。

〜日ごろの研究成果を発表〜

8月30日に秋田県農業試験場で、参観デーおよび農業クラブ活動発表会が実施され、能代西高校から生徒4名が参加しました。同イベントでは、生徒たちが地元特産の「白神ねぎ」を原料にしたアイデア商品開発をテーマに発表しましたが、「白神ねぎ」は鍋物には欠かせない食材ですが、さらなる消費拡大につなげようと4年前から様々な商品の研究・開発を重ねてきています。

生徒たちはねぎに含まれる成分を研究し、アリンは強い殺菌作用、カロテンには美容効果があることに着目。せっけんや抗菌作用を生かした防虫・抗菌スプレーを試作し、効果が実証されたことを説明しました。能代西高校



の発表では、県内の5つの高校の生徒や同試験場の研究員、地元農家ら約1000人の注目を集めました。松橋浩弥君は「多くの人の前で緊張しました。他校に負けないように今回提案した商品をさらに改善し、商品化につなげる努力をしていきたい」と話してくれました。

〜四角いスイカ!?〜

夏の代表的な果物といえばスイカが思い浮かびます。一般的にスイカの特徴は丸くて、さまざま模様などがイメージされます。しかし、生物資源系列3年生の生徒5名は課題研究の一環として四角いスイカを作ることになりました。作り方は、まだ育ちきつていないスイカを四角形の透明なアクリル板に入れて育てます。スイカが成長してもその枠の中で押さえつけられて結果四角いスイカができあがるのです。リーダーの工藤裕介君は「アクリル板の大きさがあって、成長しすぎないように観察をするのが大変でした。後輩にはもつと四角いスイカを作ってもらいたい」と話してくれました。



▲重さは4.2kgもあります

▶希少価値の高い「四角いスイカ」の栽培に成功した生徒たち



四角いスイカは市場にはあまり出回らないため、希少価値があり1玉1万円以上するそうです。

〜1万本のひまわり農場〜



▲満開のひまわりに歓声をあげる児童たち



能代西高農場では、夏の花「ひまわり」が満開を迎え、その近くにはPTAと生徒が種まきした「そば」の白い花も咲いています。8月28日には八森小学校の児童が訪れ、生活福祉学科の2年生が児童たちに説明をしながら、農場を歩きました。能代西高のひまわりは「ハイブリッドサンフラワー」といい草丈が150cmとやや低く、花の咲いている期間が長いのが特徴です。秋には「コスモス」が能代西高農場で咲き誇ります。どなたでも観賞や来場は自由なので、ぜひお越しください。



▲ひまわりのネックレスをプレゼント

